



第8号
発行 J A新潟厚生連
新潟医療センター
発行責任者 田中憲一

緑内障なのですが、
このクスリを使っても大丈夫ですか？

患者さんや医療スタッフから、時々この質問を受けます。なぜならば、薬剤添付文書(説明書)の禁忌欄に「緑内障」と記載されている薬剤が数多くあるからです(※添付の内容)

緑内障は「視神経(眼で受けた情報を脳に伝達する神経)」の病気で、開放隅角緑内障と閉塞隅角緑内障に大別されます。前者の「開放隅角」に緑内障の場合、添付文書の禁忌欄

あつても、その使用には問題がないと考えて良いでしょう。

後者の「閉塞隅角」緑内障の場合には、注意が必要です。しかし、閉塞隅角緑内障あるいはその予備軍(原発閉塞隅角症)と眼科で診断されている患者さんの場合、既にレーザー治療(虹彩切開術)や白内障手術などの予防治療が行われていることがほとんどです。これらの治療が済んでいる患者さんの場合、添付文書



眼科 関 正明

※[禁忌(次の患者には投与しないこと)]

(1) 緑内障の患者 [抗コリン作用により房水通路が狭くなり眼圧が上昇し、緑内障を悪化させるおそれがある。]



の禁忌欄に緑内障と記載されている薬剤であっても、著しい眼圧上昇を来すことはまずありません。

つまり、眼科で緑内障という診断を受けている患者さんの場合には、かえって問題を生じることが少ないのです。

実は、最も注意が必要な方は、もともと目が良くて(近眼ではなく、若い頃メガネ無しで遠くがよく見えた方)、眼科を受診したことがない方なのです。このような方の中に、房水(眼内の水)の通路がもともと狭い「原発閉塞隅角症」の方がいらっしゃると思います。原発閉塞隅角症であっても自覚症状は全くありません。ところが、そのような方が、禁忌欄に緑内障と記載されている薬剤を使用した場合に、緑内障発作(急な眼圧上昇を起こし、視力低下・眼痛・頭痛・吐き気・嘔吐などを生じる)を発症する危険性があります。発作が起こった場合には数日で失明することもあります。万が一、これらの症状が起きた場合、早めに医療機関を受診して頂くことが最も重要となります。

ファミリークラスについて

出産前の情報交換の場について

お産を再開してから、新潟医療センターでは、七十三人の赤ちゃんが生まれました。

当院では妊婦さんを対象に、個別で出産前にカウンセリングを行っていますが、同じ時期に赤ちゃんが生まれる仲間同士、情報交換や悩みを共有ができるクラスが大切♪ということで、一月十七日当院で初めてファミリークラスを開催しました。

当日は、夫婦でお越しの方、お母様とお越しの方、妊婦さんのみでの参加の計七組の方が参加しました。皆さん初対面の方ばかりでしたが、「友達から怖い話しか聞いていないから、不安しかないんです!」、「今の時期なかなか運動も出来ないんだけど、皆さんどんな工夫をしていますか」など参加者同士で意見交換もあり、楽しそうにお話されていました。

助産師 ブロード裕子

じたことはすぐ調べられるようになります。子育てのことはたくさんの方の力があつて、ひとりでは十分に出来ません。一人で考えず、同じ様な悩みや、疑問を話し合う場を作ることが、とても大切です。妊婦さんに限らず、今後は産後の人たちが集まって話し合えるような場を提供できたらいいなと思っています。



(裏面もご覧ください)

病院探索



放射線検査用画像サーバーの
更新に思うこと

迅速な情報の共有がもたらす
安心安全な医療の提供



今や、スマートフォンのような携帯端末があれば、どこでも最新のニュースを読む・動画を見る・知りたい情報を検索するなど、便利な時代となりました。使い勝手が良くなる・と沢山の人が使い、機種やアプリが進化しています。

病院においても同様に、一つのパソコン端末から、様々な情報を瞬時に引き出し活用しています。例えばカルテやレントゲン写真を保管庫から取り寄せ・ページを行き来させることなく、キーをただただで情報を得る・画像を表示できます。勿論セキュリティを保ちながら、病院で働くすべてのスタッフが、患者さんお一人お一人の情報を共有しています。迅速な情報の運用は、病院利用時の皆さまの満足度向上にもつながり、医療事故の減少にも役立つものと考えます。

今回、当院ではレントゲン写真や様々な画像データを保管する棚とも云える大容量の画像サーバーを更新いたしました。複数あったサーバーを統合し、従来からある放射線科関連画像に加え、内視鏡画像、心電図、エコー画像などをひとつのサーバーに収納し、情報の検索・共有が容易となりました。この様に統合型のサーバーを持つことで、患者さんの他院への紹介なども、様々なデータを送ることができ、安心して地域連携をご利用いただけます。

今後は、タブレット端末の更なる活用により、様々な進化が予想されます。来るべき将来のために、院内の設備と共にスマート化も押し進めていきたいと思えます。

放射線科 板橋 芳人



新人看護師として この一年を振り返って



看護師として働き始めてもうすぐ一年が経ちます。最初の頃は分からないことが多く不安と緊張の毎日で一日一日があつという間に過ぎていきました。

先輩の姿を見て「どうしてこんなに自分ではないのか」と落ち込んでしまったり、「どうしたら看護技術が上達するか」など悩むことがたくさんありました。しかし先輩から「大丈夫?」「困っていることはない?」と声をかけてもらい、様々なことを指導してもらうことで自信を持つて行なえる技術も増え成長することができました。また日々業務をこなしていく中で、ひとりで見守られているわけではなくチーム全体で看護をしているのだと気づき、少しずつですが、周りを見ながら行動できるようになって来たと思えます。

まだ分からないことも多く未熟ですが、一年目に学んだことを活かし、どんな時でも冷静に対応し、安全、安楽な看護が提供できるよう努力していきたいと思えます。

B3病棟 上原哉子

編集後記

病院に併設するこばり園では利用者さんに楽しんで頂ける様な行事を月に一〜二回行っております。

その都度ボランティアの方に参加いただき、その場を盛り上げてもらっています。

写真は利用者さんの誕生会の様子です。ギターやドラムペット等の生演奏に合わせ、フラダンスを披露していただきました。

軽音楽の演奏に合わせ、利用者さんの歌声と笑顔が園内にあふれました。

春の足音も聞こえそうな季節となり、こばり園の窓から見える桜が待ち遠しい今日この頃です。

(川島)



トロピカルサウンスとフラハウオリのみなさん